

芦屋港プレジャーボート係留施設専門分科会

第 1 回会議検討資料

[係留隻数に関する検討用参考資料]

目 次

1. 意向調査結果を基にした芦屋港 PB 係留施設予想利用隻数の算定 1
2. 他県や圏外利用者数獲得に向けた課題 3
 - (1) 芦屋港周辺の漁場について 3
 - 1) 福岡県における芦屋港海域の漁業状況 3
 - 2) 芦屋港近海の魚種漁場状況 4
 - (2) 利用者の高齢化と県外利用者獲得活動 4
 - (3) 全国における PB 利用者推移と高齢化の状況確認 5

1. 意向調査結果を基にした芦屋港 PB 係留施設予想利用隻数の算定

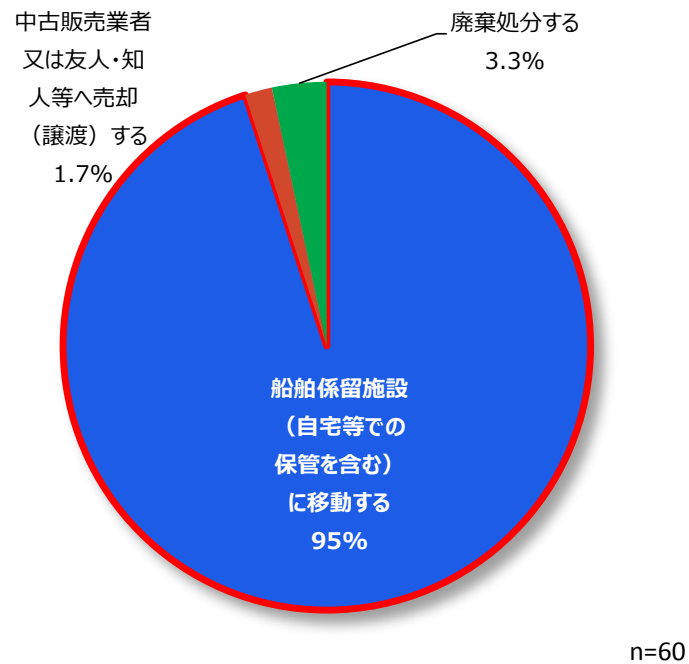


図 1 重点的撤去区域に指定された船を移動する割合【①】

出典：遠賀川船舶所有者アンケート調査 (H29.9)

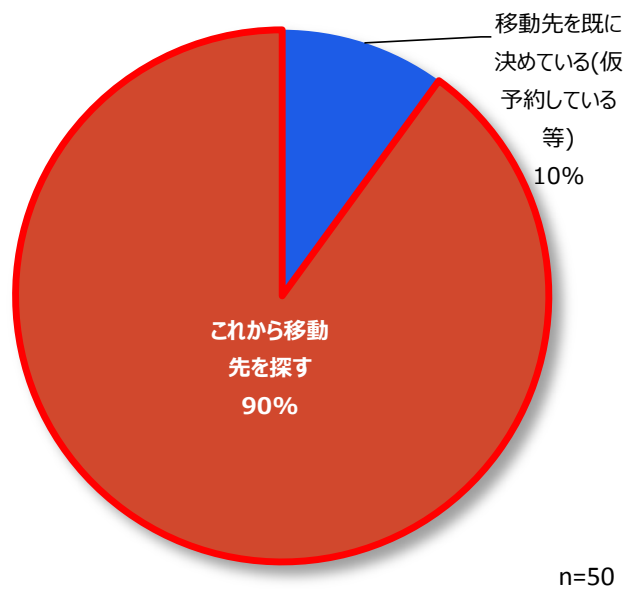


図 2 船を移動する場合、これから移動先を探す割合【②】

出典：遠賀川船舶所有者アンケート調査 (H29.9)

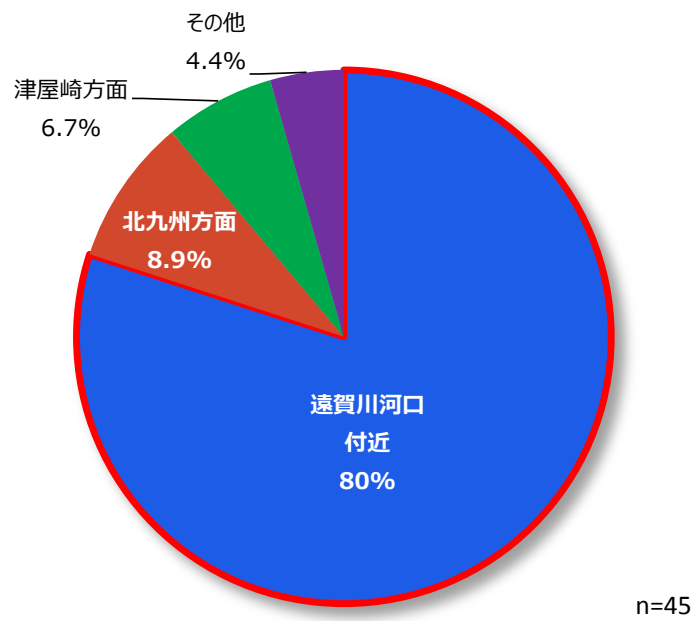


図 3 これから移動先を探す場合、遠賀川河口付近を希望する割合【③】

出典：遠賀川船舶所有者アンケート調査（H29.9）

2. 他県や圏外利用者数獲得に向けた課題

(1) 芦屋港周辺の漁場について

九頭竜川 BP のヒアリング結果では、「BP 近くの沖に良好な漁場が存在している」が理由の一つとしてあげられていた。そこで、芦屋港周辺の漁場について整理した。

1) 福岡県における芦屋港海域の漁業状況

福岡県には、外海性の筑前海、内湾性の有明海と豊前海の 3 つ海が存在する。芦屋港は、その中の外海性の筑前海に位置している。

【筑前海の漁場特性について】

- 対馬東水道に位置し、対馬暖流の影響を受ける外海性の海域である。
- 水深は 120m 以浅でなだらかに傾斜する陸棚域であり、天然礁が多く分布している。
- 沿岸や島周辺の岩礁域には藻場が形成されている。
- 浅海域が広がっているため餌生物が豊富である。
- 主要魚種は、沖合の対馬暖流から南下北上移動するマダイ、イサキ、マアジ、ブリ等の広域回遊魚である。※H21 のマダイの漁獲量は全国 1 位（H26 は全国 2 位）



図 4 福岡県の漁場概要図

出典：福岡の漁港漁場 2014（福岡県 HP）

2) 芦屋港近海の魚種漁場状況

遠賀川の河口から海にかけて漁場が存在しており、福岡県でも釣り人に親しまれている漁場である。釣れる魚と漁場は下図の通りである。



図 5 芦屋港周辺で釣れる魚種

出典：釣場データベース HP

http://www.q.turi.ne.jp/turiba_DB/fukuoka/FKw_ashiya.html

◆ 芦屋港周辺における漁場についての考察

当地域は、福岡県外洋性の豊富な餌場海域にあり元来すぐれた漁場である。なかでも芦屋港周辺から遠賀川河口から海にかけては、多くの種類の魚が生息しており良好な釣り場であると判断できる。

(2) 利用者の高齢化と県外利用者獲得活動

九頭竜川 BP のヒアリング調査結果では、当該施設の利用者年齢層が高くなっており、利用者の大半は 60 歳代～70 歳代であり、80 歳代の利用者もおられるようである。

この状況を踏まえ、九頭竜川 BP では、中京圏や関西圏で開催されるボートパークショー等のイベントに出向き、県外客獲得のために宣伝広報活動（営業活動）を実施している。

芦屋港 PB 係留施設においても、良好な漁場が存在するだけに、県外等の圏域利用者を獲得するためにも九頭竜川 BP と同様に宣伝広報活動などを積極的に行う必要があると考える。

(3) 全国におけるプレジャーボート利用者推移と高齢化の状況確認

全国におけるプレジャーボートの利用者推移等と高齢化状況を確認した。既往調査資料である、「全国一斉マリンレジャーアンケート調査（平成 23 年 1 月 全国一斉マリンレジャーアンケート実行委員会）」や、「プレジャーボートの適正管理及び利用環境改善のための総合的対策に対する推進計画（平成 25 年 5 月 国土交通省水産庁）の報告によると、下記のような状況であることが判断できる。

- プレジャーボートの保有隻数は、2000 年度の 106 千隻をピークに減少の一途を辿っており、2014 年度においては、ピーク時の約 41%減である 62 千隻になっている。
- 免許新規取得者とマリンレジャー参加人口ともに、年度により増減のバラ付きがあるものの全体としては減少傾向で推移している。＜次頁図 7 参照＞
- ボートオーナーの年齢構成に関しては、平成 5 年次では 30 歳～50 歳の年齢層が約 60% を占めていたが、平成 22 年次では、30 歳～50 歳は約 30%に減少しており、変わって 50 歳以上が 65%を占めている。＜次頁図 8 参照＞

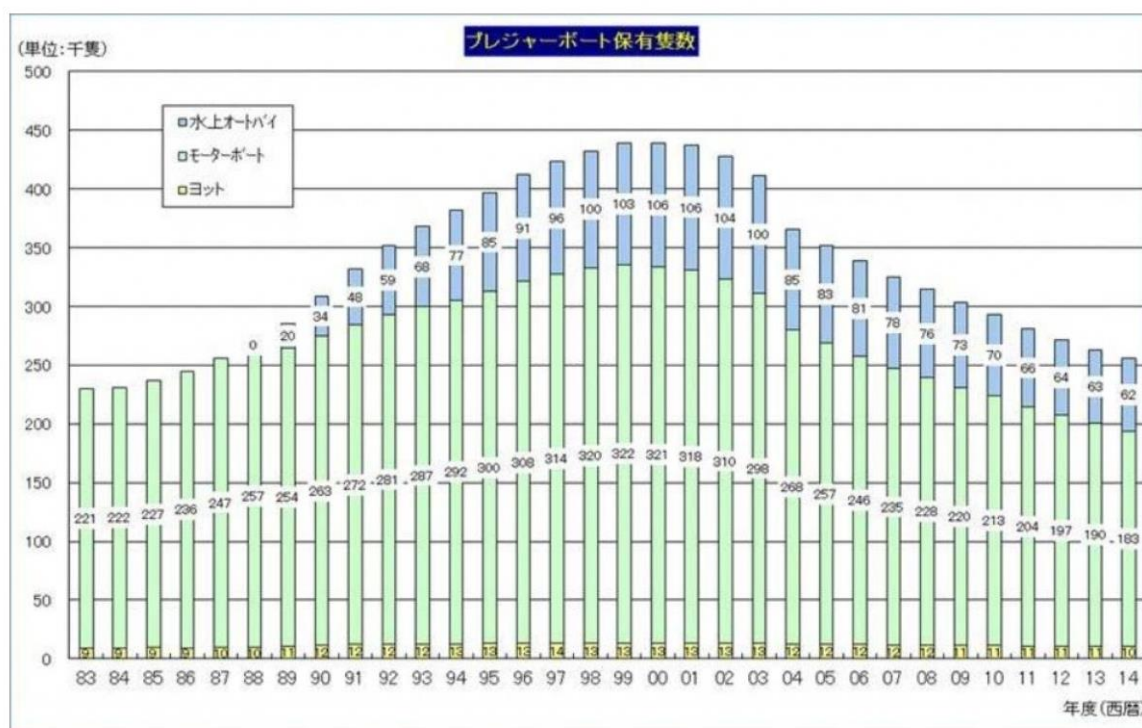


図 6 全国プレジャーボート保有隻数推移

出典：全国一斉マリンレジャーアンケート調査（平成 23 年 1 月）
（全国一斉マリンレジャーアンケート実行委員会）



図 7 免許取得者およびマリンレジャー参加者の推移

出典：プレジャーボートの適正管理及び利用環境改善のための総合的対策に対する推進計画
(平成 25 年 5 月 国土交通省水産庁)

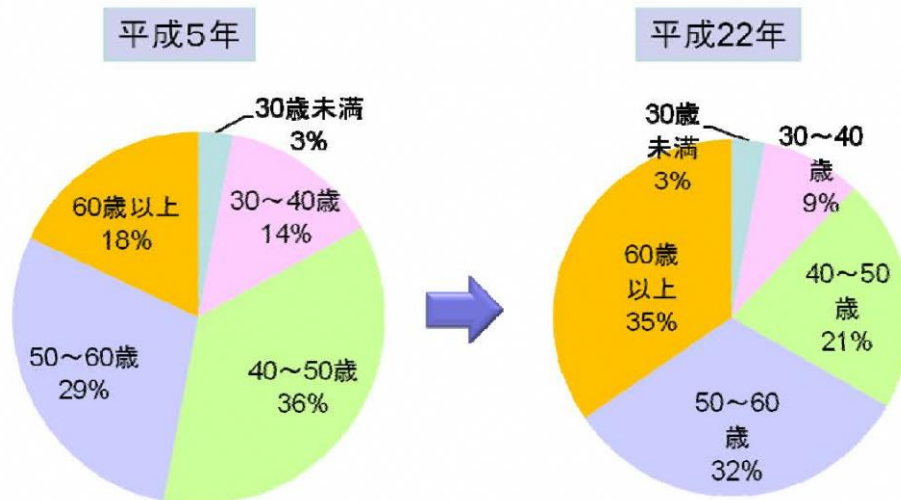


図 8 ボートオーナー年齢構成推移

出典：プレジャーボートの適正管理及び利用環境改善のための総合的対策に対する推進計画
(平成 25 年 5 月 国土交通省水産庁)